

「フランスと聞いて最初に何を連想するかな？」「噴み砕いた氷を飲み込んだワイザットに現代のマグワートが訊ねた。「ん〜。天秤？」「おお、それはとても良い連想じゃない。マグワートは顎鬚を撫でながらそう言って更に言葉が続けた。「フランスというの元々は二つのお皿、天秤という意味じゃ。現在の解釈では静止または動的動作に於いての釣り合い、安定、調和ということじゃがな」

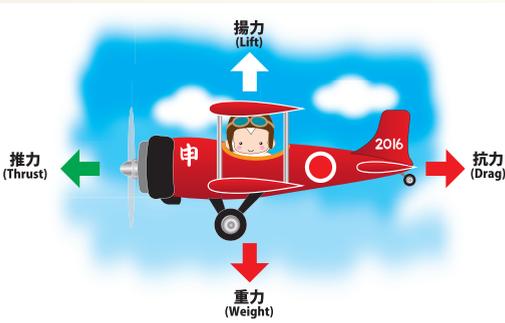
「静止または動的動作？」マジヨリアルが問い掛ける。「そうじゃ。バランスというの静止した状態のことだけではなく、動いている中、つまり変化の中に於いても重要なファクターであると言えるんじやよ」「変化の中？」今度はワイザットが反応した。

「そうじゃ。実は真の安定とは変化の中にこそあるんじやよ」マグワートはそう言う立ち上がり、棚の上にあつた模型の様なものを手に取った。

「これが何か分かるかな？」「ん？船？」「いや、これは飛行機のスケールモデルじゃ。先程君達の頭上を飛び去つたヘリコプターの親戚じゃよ」他にも空を飛ぶ巨大なものがあるのかい？何と恐ろしい所なんだ」ワイザットが目を開く。

「飛行機というものは1903年にライト兄弟が初めて飛ばしたもののじゃ。ヘリコプターの原案はレオナルド・ダヴィンチが考えていたという説もあるが、実際に彼のイラスト通りのものを作つても航空力学的には飛ばないそうじゃがな」ライトさんとレオナルドさん

ていうのは何者だい？」「ライト兄弟はライト家の三男のウィルバーと四男のオーヴィルという兄弟で、元々は自転車屋だったが、空を飛ぶ夢を追い続けて成功させたんじや。レオナルドはイタリアのルネサンス期を代表する芸術家として広く知られており、「最後の晩餐」や「モナ・リザ」等が有名じゃな



か？マジヨリアルが横から訊ねる。

「おお、バランスの話じゃつたな。そう言うマグワートは模型を持ったままパーソナルソファに再び腰を下ろし、話を続けた。「この飛行機もヘリコプターも地上に駐機している時には鉄の塊じゃ。それが何故空を飛ぶと思う？」「ん〜。天使が引つ張り上げていたのか？」「魔女ジュニマーナのパワーかしら」

「はははは」真剣に答える二人にマグワートは苦笑した。

「飛行機には基本的な4つの力が働いておるんじや。浮き上がる上向きの力、揚力、それとは逆に飛行機を下に向かわせる力、重力、前に進む力、推力、そして後ろ向きに掛かる抵抗としての抗力。この4つのバランスを取り、調整しながら飛ぶおるんじや」

「4つのバランス？」「そうじゃよ。安定した飛行を続けるにはバランスが重要なんじや。飛行機は空中で停止は出来ない。ヘリコプターはホバリングという技術を用いて停止は出来るが、自身のローターによる吹き降ろしの風により、settling with power」という危険な状態になることもあるので、長時間の停止はやはり出来ない。つまり、航空機は飛び続けるといふ変化というものの

中でバランスという安定を保っている乗り物と言えるんじや。この世に生まれ落ちた人間も変化というものからは逃れることは出来ない。常に変化の中で安定を保ちつつ生きて行かないといけないという宿命を背負っていることになるんじやよ。変化の中の安定こそが真の安定であるという意味はそこにあるんじや。さつき時間というものは概念に過ぎないと言つたが、時間とは変化を実感する為の単位であり、変化というものがその地球に於ける安定のファウンデーションでもあるんじや。矛盾しているように聞こえるのう」

「マジヨリアルが横から訊ねる。そう言うマグワートは模型を持ったままパーソナルソファに再び腰を下ろし、話を続けた。「この飛行機もヘリコプターも地上に駐機している時には鉄の塊じゃ。それが何故空を飛ぶと思う？」「ん〜。天使が引つ張り上げていたのか？」「魔女ジュニマーナのパワーかしら」

「はははは」真剣に答える二人にマグワートは苦笑した。「飛行機には基本的な4つの力が働いておるんじや。浮き上がる上向きの力、揚力、それとは逆に飛行機を下に向かわせる力、重力、前に進む力、推力、そして後ろ向きに掛かる抵抗としての抗力。この4つのバランスを取り、調整しながら飛ぶおるんじや」

「マジヨリアルが横から訊ねる。そう言うマグワートは模型を持ったままパーソナルソファに再び腰を下ろし、話を続けた。「この飛行機もヘリコプターも地上に駐機している時には鉄の塊じゃ。それが何故空を飛ぶと思う？」「ん〜。天使が引つ張り上げていたのか？」「魔女ジュニマーナのパワーかしら」

## チャネリング相談

**Q** 5年前から片想いだった同じ業界の人とお付き合いすることになったのですが、実は彼女の元カレ達が業界の中に2人います。彼女は二股をかけるようなタイプではないので、その都度それぞれ真剣なお付き合いの様でしたが、僕はそのことをどう受け止めたらいいのでしょうか。(NY 在住 L さん)

**A** 人間レベル、コンサバな思想では特に女性は、恋愛遍歴が少ないほうが良いとされる風潮はあるとは思いますが、(一部宗教はもっとシビア)

ですが、魂的には初恋の人と相思相愛になり、一生添い遂げようが、複数の人と付き合った挙句に生涯の伴侶を得ようが、どちらが正しいとか間違いはありません。それぞれの人生模様において、学ぶことは場面毎にあるからです。

注) だから安易に大勢と付き合っても良いという意味ではない。

確かに、相手の元カレや元カノを知っている、というケースでは現実的には複雑な心境になることはあります。ですが、今、目の前に居る彼女は、5年前の彼女ではなく、Lさんの知人と付き合っている彼女でもなく、今現在の彼女です。

勿論、人間は記憶を消すことは出来ませんから、元カレとの想いの引き出しが彼女の中にもあるでしょう。ですが、人は色々な引き出しを持っているもので、その引き出しも今現在のその人の構成部分であるという事実があるだけのことです。

そして、彼女はこれまでの経験をステップストーン(糧)として、今現在、Lさんとお付き合いしているのです。過去は重要なステップストーンであり、そこから学んだことを未来に活かす価値あるツールではありますが、それ以上でも以下でもありません。

一番重要なことは、彼女とLさんには今から続く未来がある、ということです。そこにフォーカスして、幸せなルーションを構築して下さい。

注意: 魔女ともえが述べる内容はチャネリングによるひとつのサジェスチョンです。